

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大仙市立豊成小学校（秋田県）【指定校】

【取組内容】 子どもを主語にした授業への変容～複線型の授業～

「関わりを通して高め合い、主体的に学ぼうとする子どもの育成」を研究主題とし、全校体制で研究を進めてきた。低学年では、教師主導による学びの割合を多めにし、学びの基礎の育成に重きを置いた。中学年以降では、単元内自由進度学習や複線型の学びを取り入れた単元構成に取り組んだ。

単元内自由進度学習

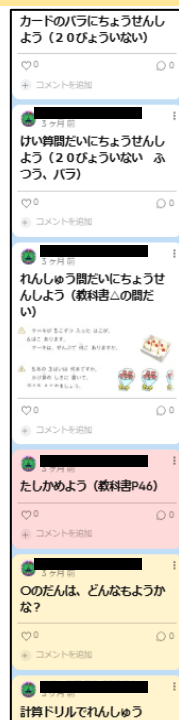
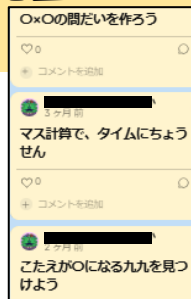
【2年】算数「かけ算」

児童が主体的に学ぶ授業として、2年生でも単元内自由進度学習に取り組んだ。乗法の意味を理解する場面は一斉授業を、九九を構成したり適用したりする場面は複線型で進めた。九九を構成する学習においては、はじめに5の段の学習の仕方をクラウド上で提示した後に、自由進度学習を行った。また、どのようなときに友達と学ぶと効果的なのかについても確認し、児童が教師の指示を待つことなく主体的に学んでいけるようにした。どの児童が今、どの九九について学んでいるのかを掲示したことで、児童同士でアドバイスを求めたり、進んで助言したりする様子が見られた。毎時間のはじめには、前時の振り返りや児童の疑問点や見つけたきまりについて共有させたい内容を意図的に取り上げる時間を設定し、終わり5分程度は、自分の学びについて確認できるようにオンライン掲示板へ振り返りの入力の時間を設けた。早めに課題をクリアした児童のために、「〇×〇の問題づくり」「答えが〇になるかけ算あつめ」「〇の段のもようづくり」などの課題を用意し、児童自らが選択し、挑戦できるようにした。

【3年】国語「わたしの町のよいところ」（書くこと）

1時間目は単元のめあてと学習の流れを一斉指導で確認。3時間を使い、児童はじっくりと自分の町のよさを紹介する文章を書き上げた。個の活動をしている中で、自然発生的に友達のアドバイスを読み合う様子が見られた。教師はイメージマップや、文の組み立てシートなどを学習支援アプリで用意し、児童が必要に応じて使用できるようにした。これにより教師は書くことに難儀している児童に十分な時間をかけて支援することができた。また、より児童一人一人の実態を把握することができるため、本単元の計画の見直しや「書くこと」の領域の授業構想について児童の実態に応じた場の設定を考えることができた。

学習の流れ

課題を達成した児童への
選択課題の提示児童の気づきを
クラウド上で共有

リーディングDXスクール事業【実践事例】

大仙市立豊成小学校（秋田県）【指定校】

【取組内容】 子どもを主語にした授業への変容～複線型の授業～

【5年】国語「想像力のスイッチを入れよう」（読むこと）

単元の前半（既習事項で学びを進められる内容）では、クラウド上に「学習の手引き」を配信し、それをもとに児童が自ら学びを進めた。クラウド上のデジタルノートをお互いに確認することで、協働する相手を選択しながら学びを進めていた。学習が停滞している児童を見逃さないように、課題ごとにチェックポイントを設けて、教師が児童の理解度を確認し、必要に応じて指導した。



My Goalを設定



お互いのMy Goalをもとに協働相手を選択



自分の考えとクラウド上の友達の考えを比べる

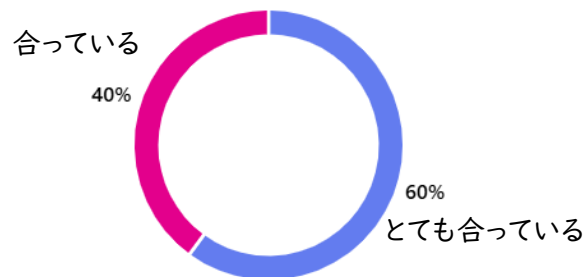


教師と学ぶ児童

児童の反応や成果

◎第5学年の児童（18名）を対象に学習アンケートを実施した。すべての児童が複線型の学びに対して肯定的に回答した。

Q:「複線型の学習スタイル」は自分に合っていると思いますか。



理由

- ・みんなと同じ課題で勉強するのは緊張して集中があまりできないので自分のペースで勉強するとじっくり考えて納得することができるから。
- ・今まではすぐに分かる勉強は余った時間が暇で、よく分からなくなった勉強は追いつけなくて時間が足りないのに、分かったふりで終わってしまっていた。でも、今は出来る勉強は突き進んで、分からないのは時間をかけて教えてもらったり、自分で考える時間がたくさんあって、全部分かった状態で単元を終われていると思う。
- ・4年生までは全部自分の力でやっていて、友達に聞いていいのか迷ったまま一時間すぎて、何もできなかったことがあった。友達と一緒に勉強したりするのはとても自分に合っていると思う。